

<理念・基本目標・運営方針>

(1) 理念

バウムハウスは、生きづらさを抱えた子どもたちのために存在し、時代を担い成長する施設であり続けます

(2) 基本目標

- ・子どもたち一人ひとりのあるがままを大切に「伝えあう」を積み重ねます
- ・あたたかな人間関係の中で自尊感情を回復させ、信頼と安心を育みます
- ・常に、支援の環境とそのあり方の向上を目指します
- ・地域福祉と子どもの最善の利益のために自己研鑽に努めます

(3) 運営方針

あたたかな見守りと、やわらかな癒しを支援者の基本姿勢とし、「わたしが、わたしであるために。きみが、きみであるために。」をテーマに、こどもたちのあるがままの存在を受け止め、信頼と安心・自律・自尊心の回復をめざすために、愛情に裏打ちされたバウムハウスの全ての機能を連帯させ協働していきます。

<総括>

今年度は、冒頭にバウムハウスの理念と支援方針を示し、事業計画の各論の中で掲げた目標を、ひとつずつ着実にやり続けていくことで、成長する施設であり続けることを掲げている。

令和4年度は、男子児童20名、女子児童8名の合計28名でスタートし、年度内に10名の児童が入所して現在36名の子どもたちが生活をしている。ただ、実際は児童相談所からの令和4年度の入所相談は30名弱の児童がおり、相談の背景としては、子どもの特性に対応しきれない（監護困難）を訴える保護者からの相談、虐待等によるトラウマケアが必要な相談、他の社会的養護施設からの措置変更の活用が多い。その中で、児童相談所がバウムハウスへ期待することは、子どもの特性に応じた心理的な個別配慮を要する支援、医療的サポートが主である。

児童相談所からの実際の相談件数のうち、3分の2の児童は入所できていない。その児童たちはどこで何をしているのか、どんなサポートに結びついたのかを知ることもできない。正直、そもそも相談依頼のあった児童が、バウムハウスを第一候補として適切にアセスメントされたのかは疑問に思うこともあった。ただ、児童相談所を批判するというよりは、複雑で多面的な児童や家族をアセスメントするシステム自体に課題があるとするならば、バウムハウスの機能としては、医療的ケアと福祉的ケアの比重、あるいは治療の必要性について一定の時間をかけて評価する機能も必要である。バウムハウスで支援が完結するのではなく（問題解決することだけが正解ではない）、子どもの人生においてマイナスにならないような切れ目のない支援の一角を担い、子どもの成長を見守ることも求められる。

児童心理治療施設としてのバウムハウスに期待されていることに応えていくためには、我々が掲げている理念と支援方針の実現に向けた具体的な目標設定と実践という一連の流れを、職員一人一人が自覚し、主体的に関わることでできる組織とならなければならない。そのためには、人それぞれ考え方、人生の目的や価値観が異なるとは思いますが、同じ職場に勤めているからには、何かしらの共通点があるはず。それが何なのかを常に意識し、自分たちのやっていることの意味は何なのか、何気ない生活の連続の中で行われている支援の意図は何かを明確にすることが大切である。

バウムハウスが一枚岩となるために、「どうあるべきかを考える姿勢」を一人一人に持って欲しい。そして、我々がやっていることの意味について多く議論し、子どもたち一人一人にとって今何が必要なのか、自らが考えられるようになっていかなければならない。例えば、生活棟の環境整備のために「掃除機をかける」という仕事を二人の職員が行うとする。一人目は、カーペットの上にある物も避けて、カーペットをめくって裏の埃まで掃除をし、さらに床に落ちているゴミまで拾うかも知れない。一方、二人目は、カーペットの上だけ掃除機をかけて終わり、となるかもしれない。一人目は、掃除機をかけるという仕事を高い基準で行い、このカーペットの上には子どもたちが毎日座るものであり、「心地よく過ごしてもらいたい」、「ゴミを拾うのも当たり前だ」と考えている。一方、二人目は掃除機をかけるという仕事を低い基準で行い、「掃除機をかけるように言われたからかけただけ」となる。どちらの職員も自分が、「これでよし！」と思える方法で仕事をしたのだが、結果には大きな違いが生まれる。当然、バウムハウスの理念や基本方針から考えても、一人目の基準で仕事をしてもらいたいという想いはあるが、二人目を責めるわけには行かない。つまり、何のために環境整備を行い、どの程度の基準で掃除機をかけるかを示していないことが問題である。言わなくても分かるだろうではなく、子どもにとって必要な、より高い基準で仕事をするためには、何のためにやるのかが言葉で

説明できなければならない。こうして、バウムハウスは環境整備の仕事ひとつをとっても、意図を言葉で説明できることと明確な基準を示すことが大切である。

多くの職種、幅広い年齢層、経験の差、人生の目的や価値観が異なる人が集まっている集団を一枚岩にし、意識のベクトルを合わせることは簡単なことではないかもしれない。しかし、組織として活動する上で、お互いの考え方やスタンスへの理解は外せない要素であり、相手の考えや意図を知るためのコミュニケーションも必要である。子どもたちの支援にも共通すると思うが、職員間の対話も重要である。

愛情に裏打ちされたバウムハウスの機能を連帯させ協働させていくには、仕事の基準を個人任せにするのではなく、何のために今この仕事をしているのかと考えを巡らせ、その中心にあるのは常に子どもであるということをおぼえてはならない。このような我々の姿勢をみせることで、子どもたちも安心し、ここの大人には頼っても良いという信頼関係が芽生えたと信じ、今年度の総括としたい。

<令和4年度事業報告>

(1) 事業目標

①施設の健全運営

・職員の状態

令和4年度は、上半期が児童指導員3:1、心理療法担当職員加算1名、下半期が児童指導員3.5:1、心理療法担当職員加算0名で、ほぼ想定していた配置、体制となった。

令和5年度は、児童指導員と保育士については、2名することから令和4年度と同じ配置、心理療法担当職員については、入職者がいないため加算0名となる。

・入所児童の状態

令和4年度は定員50名に対し暫定定員38名となる見込みであったが、本年度も厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症に係る暫定定員設定の取り扱いについて」の連絡があり、入所児童の減少が考慮された算定方法が採用され、その結果暫定定員39名となることとなった。次年度も同様の算定方法をとることが出来ること。

入所児童数は、前年度と同数の11名、退所数は前年比3名増の10名であった。今年度は年度途中の退所がなかった。年度末に2名の入所があり、令和5年度のスタートは28名（前年度より4名減）となる。

令和4年度各月初日児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	20	21	21	22	22	22	23	23	23	23	23	23	266
女	8	8	9	10	11	11	12	13	13	13	13	13	134
計	28	29	30	32	33	33	35	36	36	36	36	36	400
入所	3	1	1	1	1	2	0	0	0	0	0	2	11
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
一保	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

※退所理由：

家庭復帰5名、措置変更等（施設変更）5名、就職自立0名、進学自立0名、その他10名

・情報共有

ファイル共有サーバーの他、児童の個別記録を管理する「情報共有システム」、スケジュール管理の「aipe」、ビジネスチャットツール「chatwork」を場面に応じて活用している。

・情報公開

事業計画書に沿った内容をウェブサイトで引き続き公開を行ってきた。

②子どもの権利擁護

・個人情報の保護

常日頃、情報の漏洩に注意喚起を行っており、必要時以外の施設外への持ち出しは行わないよう徹底した。また、SNSなどインターネットを利用した発信への注意喚起を行なった。

・苦情解決相談

今年度も日常の些細なトラブルやクレームであっても苦情と同様にして取り扱い、記録に残すことはもちろん再発の防止に役立てた。また、日常的に児童との会話や面接などを丁寧に行うことにより、日頃から抱えている思いを汲み取り不満の解消に取り組んだ。

令和4年度の受付件数は0件であった。（令和3年度 受付件数0件）

- ・被措置児童虐待の防止
子どもたちが安全かつ安心して生活ができるよう被措置児童虐待の未然防止について職員全体会議等で研修を重ね意識化を図った。
- ・意見箱の活用
意見箱の開函は、原則子どもたちの登校日は毎日開函することとし、児童のさまざま意見に迅速に対応している。(年間意見数 計 28 件)

③専門性の充実・強化

※(5)職員研修実績を参照

④リービングケア、アフターケアの充実・強化

- ・年2回の児童自立支援計画票の作成を通じて、児童の状態を施設全体で確認し必要な支援を検討し、次のステップを見据えた治療及び支援の展開を図っている。
- ・退所時に、退所後の不安を少しでも軽減できるよう、施設としてアフターフォローをする姿勢を示し、子どもやその保護者等からの相談を積極的に応じることが出来た。また、必要に応じ適切な機関に繋げる取り組みを行なった。
- ・新規入所児童の家庭に対し、担当するスタッフの氏名や交流のステップの当面の予定を郵送し、保護者に理解を得られるよう配慮してきた。担当職員と協議しながら、児童相談所の協力を得て、地域の関係機関、家庭訪問、学校訪問などを実施し、児童と家族が抱える家庭復帰の不安の軽減を図ってきた。また、退所した児童の通う学校との連携を継続し、児童と直接会って励まし、課題の整理を行う機会を設定した。また、家族、関係機関と児童の支援についても協議を行ってきた。

ケース協議 57回(リモート含む)

⑤家族に対する支援の強化

- ・平成30年度より引き続き、家庭支援専門相談員を2名配置し、家族支援の強化を図っている。
- ・バウムハウスの面会・交流、帰省のステップを基本とし、家庭支援、家族交流を積極的に行なうため、家庭状況に応じ、家族療法棟を活用した。交流方法について、児童相談所と連携を図り、検討の上実施することができ、家庭復帰に向け、週末帰省を実施しながら家庭調整を図ったケースを含め、順調にステップを重ねることができた。
- ・児童の発達特性や必要な支援について、田中医師との保護者面接も実施している。
- ・家庭支援専門相談員を主とした職員と保護者との面接回数は、30家族で延べ214回。家族療法棟を活用した回数が延べ20回だった。新型コロナの影響により、家族の交流の機会が少なくなったこともあり回数は少なかったが、前年度より少し増えた。

⑥施設機能の地域社会への貢献の取組み

- ・新型コロナの影響もあり、地域貢献事業としてこれまで行なってきた講演会などは開催できなかった。

⑦関係機関連携による治療的ケア及び支援の取組み

- ・星の丘小中学校との連携・協働
星の丘小中学校とは、朝のミーティングとその日の子どもの様子を学校と施設の双方で紙面による情報共有が日常的に行なわれ、定例のカンファレンスだけではなく、必要都度ミニカンファレンスが開かれ、連携した支援の取り組みを常に行なっている。
- ・児童相談所との連携・協働
入所前から入所後、退所後まで児童とその保護者及び、その取り巻く環境等の各種情報について児童相談所と共有し治療支援に連携して取り組んでいる。
- ・Zoomを活用したりリモート協議や面会が年間を通してかなりの頻度であり、定着した感がある。今後もより一層の活用を行ない連携に活かしていきたい。
- ・胆振地区特別支援教育ネットワーク(いぶりネット)への参加
令和4年度 第1回会議 令和4年5月26日 オンライン参加
第2回会議 令和5年2月28日 オンライン参加

※西胆振地区の特別支援教育の理解啓発や充実を図ることを目的に、平成18年に伊達高等養護学校、室蘭聾学校、室蘭養護学校の3校で組織した特別支援教育ネットワークが「西胆

振地区特別支援教育ネットワーク」。対象となる市町は、室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町の6市町。開設当時は特殊教育から特別支援教育への移行の時期ということもあり、各特別支援学校が地域におけるセンター的な役割を果たすためにはどのようにすればよいかを模索していた時期で、3校の管理職及び特別支援教育コーディネーターが中心となり、特別支援教育全般に関わる情報交換や研修を行うことなどを中心に活動した。現在では、上記の目的と併せて、3校それぞれの専門性を生かした役割や特別支援教育コーディネーターの在り方などについて検討している。

⑧子どもたちが安全で安心して生活するための取組み

・性教育委員会の取組み

“発達面に課題の抱える子どもに対する性教育”というのを念頭に置き、“性に特化したものではなく誤った（未成熟な）対人関係が性問題へと発展する”と捉え、入所児童の基本課題であるところの望ましい対人関係の獲得と、性指導のあり方について検討を行ってきた。

また、性知識のダイレクトな教育は極力避け、「人つきあいの学習」として、児童とともに「人とのつきあい方」を考える機会とすることで、行き過ぎたつきあい方に対する予防することをねらっていきたいと考えてきた。

子どもが性に関する疑問をふと思い質問をしたときに、大人として正しく答えてあげることが一番の性教育と考える。そのような体制を作っていくことを次年度の柱のひとつにしたい。

<主な取組み>

- ・委員会開催回数 17回
- ・個別面接 計36回（入所後8回、個別26回、相談2回）
- ・性的逸脱行動の発生状況 計0回（前年度計3回（延べ7名））

・事故等の報告

今年度発生した、施設内および学校での児童の怪我や事故（逸脱行動等）等は以下のとおりである。

一部を除いて胆振総合振興局、北海道室蘭児童相談所、措置児童相談所に事故報告書を提出し、必要に応じ事故後の対応についても適宜報告した。

⑨職員が意欲的に子どもたちと向き合うための職場環境の確保

・ストレス調査

厚生労働省のストレスチェック実施プログラムを利用し、年2回（5月、10月）全職員のメンタルヘルス調査を実施し、必要に応じて適切な対応を行っている。

・労務管理状況

会議や児童の活動などで時間外労働の発生は最低限やむを得ないところがあるが、時間外労働の削減を意識し勤務調整等を行ないながら事業を推進している。また、時間外勤務等の大部分については、時間休や代休で処理をするように努め、実労働時間を減らしている。

今年度は、11月と1月に入所児童にコロナ感染者が発生した事による隔離対応のため、また、1月以降女性職員の減少も伴って、休日出勤対応というかなりイレギュラーな対応を取らざるを得ない状況に陥ってしまった。

年次有給休暇については、勤務表作成時に、希望休をとれるようにしているため取得率が低くなる傾向がある。また働き方改革による年次有給休暇の指定義務化を踏まえ、今年度も有給休暇の取得を推進してきたが、前述したとおりコロナ対応などにより有給消化が出来なかった職員もいた。尚、有給休暇の取得率は前年度よりあがった。

時間外労働時間（対象：全職員（施設長、医師除く） 平均30.08名）

年間	時間外	休日出勤	深夜業
合計時間	894.5 (986.00)	740.25 (237.25)	3.00 (66.00)
一人平均	31.95 (32.78)	25.90 (7.89)	0.10 (2.19)
一人一月平均	2.66 (2.73)	2.16 (0.66)	0.01 (0.18)

年次有給休暇取得状況（対象：全職員（医師・施設管理員を除く） 月平均32.6名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数計	52.0	14.5	13.5	30.5	16.5	39	24	16.5	26.5	25.5	25.5	17.0	301.0
時間計	1	9	3	11	12	6	1	6	11	0	0	7	41

取得率 = (301.0日 ÷ 31.3人 = 9.62) / (583日 ÷ 31.3人 = 18.63) × 100 = 51.64%
 有休5日取得達成者 27名 / 33名 達成率 81.82%
 ※未達成者5名の内、4名は常勤職員
 ※うち4名は退職に伴う年次有給休暇処理によるもの

※過去の年次有給休暇取得率

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
割合	34.17%	24.32%	37.34%	43.72%	34.95%	42.91%

⑩地域との交流、地域貢献の取り組み

新型コロナウイルス感染症が感染拡大する前は、例年、福祉関係者のみならず教育関係者等の施設見学を多数受け入れることにより、また、講師派遣により児童心理治療施設への理解を拡げる取り組みを行ってきたが、2022年度についても、新型コロナの影響により、縮小せざるを得ない状況が続いてしまっている。

・施設見学・来所者

新型コロナウイルス感染症対策により、施設見学や施設入場を制限していた。

・講師等派遣

8月 23日 星の丘小中学校 発達検査の読解などについて (心理士2名)

・実習受入状況

主に保育士資格向けの実習生と社会福祉士養成の実習生を受け入れている。昨年度に引き続き感染対策を十分に配慮しながら実習を受け入れた。

5月 16日 光塩学園女子短期大学 保育実習 女子1名 (~5/28)

6月 27日 光塩学園女子短期大学 保育実習 女子1名 (~7/9)

8月 17日 名寄市立大学 保育実習 女子1名 (~8/29)

8月 15日 北星学大学 ソーシャルワーク実習 女子1名 (~9/15)

10月 19日 北翔大学短期大学部 (~10/29)

11月 21日 藤女子大学 保育実習 女子1名 (12/5~に変更、本人体調不良のため12/10終了)

2月 6日 北星学園大学 入門実習 女子1名 (~10日)

・Support School Education 事業

趣旨 児童心理治療施設という種別の特性を活かした、心理治療に関するノウハウを活用した地域貢献事業を、学校教育と連携する中で展開する。

内容 ・教育支援のより良い展開のために、発達障害を有する児童生徒の特性を理解する
 ・心理検査データの具体に基づき、児童生徒の特性を理解し、支援の個別化の方法について検討する。
 ・学校でのカンファレンスの同席
 ・その他

実績 7/13 伊達市立光陵中学校 (カンファレンス)

7/20 伊達市立東小学校 (カンファレンス)

9/5 伊達市立西小学校 (カンファレンス)

9/22 伊達市立光陵中学校 (電話対応)

1/19 伊達市立光陵中学校 (電話対応)

⑪社会的養護関係施設第三者評価の受審結果を踏まえた取り組み

2019年度に引き続き、今年度も3年に1回の第三者評価を受審している。当初11月の受審予定であったが、コロナ感染者が出た影響を受け、年度末間際の実施となっている。

事業総括や事業計画の策定時には、第三者評価の受審結果を踏まえながら検討し、また次回の第三者評価受審に向け、支援の向上と適正な施設運営を目指している。

※以下、公表事項から一部抜粋

⑦総評

◇特に評価の高い点

1. イン트라ネットの整備とその利活用を背景とした共同作業環境

多職種からなるチームかつ交代制勤務という勤務条件下でも、情報共有が有機的になされる工夫として、データベースシステムやグループウェア、情報共有サービスの利活用を積極的に推進している。子どもの記録では、自立支援計画で立案した短期目標・中長期目標が画面上に常に表示されていることで、目的に沿ったアセスメントや支援方策の立案が可能となり、支援の質向上や連続性の担保に資する工夫がなされている等、極めて重要なツールとして機能していることは特筆に値する。

2. 積極的な研修体制と施設長のリーダーシップ

子どもを尊重した治療・支援を進めるために、職員が各種研修へ積極的に参加できる機会を設けている。研修の参加は、必要な知識・技術に関する基本的な考え方を明確にし、「職員研修実施要綱」に基づいて計画的に進められている。年度途中に案内が来た研修についても、職員の希望を取り入れ参加できるようにしている。さらに、実践されている治療・支援の質の向上に必要な課題について、施設長がそれを理解した上で、職員の抱える苦勞に共感し、治療・支援の方法について直接的な助言や施設内研修におけるレクチャーの機会を設けているなど、施設長のリーダーシップが発揮されている。

3. 生活の場における治療・支援の質の向上に向けた構造化された取組

日常生活において、子どもが安全な場所にいることを意識できるように支援し、また、子どもとの信頼関係を構築するために、トークンエコノミーを活用した生活習慣を身につける支援を実施している。支援方法については、マニュアルを整え、構造的に取り組んでいる。子ども一人ひとりの発達段階や課題に応じて、職員全員が正しい理解を共有できるよう、週1回のブロックごとのミーティングを実施している。ミーティングの内容はイン트라ネットを通じて共有し、必要に応じて施設長などからのレクチャーを受ける機会を持つなどし、生活の場における、治療・支援の質の向上に取り組んでいる。

◇改善を求められる点

1. 目指したい姿の明確化

当施設の専門性をさらに高めるために、規程類や標準的な治療・支援の実施方法を定期的にチェックしていく機能の強化が望まれる。チェック機能については、施設が最も目指したい姿を明確化した上で、規程類や治療・支援等がその姿に沿っているのかを、定期的に振り返る手続きになることが望まれる。そのため規程類については、有効期限を定めて見直す仕組みとすることで、施設の目指したい姿に前進していくサイクルとなる。より専門性の高い治療・支援や、地域に対する支援の充実にも繋がっていくことに期待したい。

2. 仕事の魅力発信を含めた人材確保への取組

家庭支援専門相談員や心理士などの専門職員の複数配置など、より専門性の高い治療・支援体制及びアフターケア体制の構築に取り組んでいるが、そのための人材確保が継続した課題となっている。保育士や社会福祉士など、各種実習の受入れは積極的に行っている。次代を担う学生に対して、仕事の魅力や、やりがいや伝わる実習プログラムの開発が望まれる。さらに、現在取り組み始めているオンラインを用いた施設紹介など、新たな方法を活用し、施設が取り組んでいる魅力ある治療・支援方法や職員育成体制などの情報発信を積極的に行うなどし、人材確保の課題改善に期待したい。

3. 治療・支援に関するマニュアルの継続的な更新

さまざまな背景や特性を持つ子どもに対し、トークンエコノミーを始めとした行動療法をベースに、生活の場における治療・支援を展開しているが、職員の入れ替わりや体制の変化があり、子どもが示す行動上の問題の対応に一部職員が苦勞している現状も伺えた。子どもたちの行動については、主観的な捉え方だけでなく、支援の実施とその結果について再アセスメントを行い、支援方法の再検討や支援計画の改訂が求められる。子どもたちの心身を傷つけずに対応するための技術や、チームでの対応方法の検討など、全ての職員が適切な支援技術を向上するため、マニュアルの継続的な更新が望まれる。

(2) 支援事業内容

①主な行事等

4月	5日	伊達高等養護学校校長来所
	6日	小6女子協議 (Zoom)、伊達市健康福祉部3名来所
	7日	星の丘小中学校始業式、中1男子協議 (札児来所)
	8日	星の丘中学校入学式 (予定)

	12日	全体会議（内部研修他）
	14日	退所児童セラピー（札幌）
	15日	田中康雄先生診察日
	19日	入所予定児童協議（Zoom）
	20日	入所予定児童協議（Zoom）、給食委員会、誕生日会
	21日	BASE 会議
	27日	消防査察、中2女子協議（函館児相来所）
5月	3日	男子グループGW活動（バーベキュー）
	4日	女子グループGW活動（バーベキュー）
	6日	小6女子面会協議（岩見沢）
	7日	星の丘小中学校 春の遠足
	13日	田中康雄先生診察日
	14日	中1男子リモート協議（中央、）
	17日	全体会議（自立支援計画）、 中2男子リモート協議・面会（室蘭・苫小牧）
	18日	退所児童面会（岩見沢）
	20日	BASE 会議
5月	24日	全体会議（自立支援会議、Zoom 併用）
	27日	給食委員会、誕生日会
6月	2日	新規入所予定児童リモート面会（室蘭児相）
	3日	田中康雄先生診察日
	4日	星の丘小中学校合同体育
	10日	小5男子リモート面会（中央児相）
	11日	小3男子一時保護委託
	14日	小6男子一時保護移送（占冠）
	15日	中央児相来所（小5男子面会）
	16日	中1男子リモート協議（札幌市児相）
	17日	田中康雄先生診察日、中3女子リモート協議（帯広児相） 中3男子リモート協議（旭川児相）
	19日	高3女子オープンキャンパス参加（札幌市）
	21日	全体会議
	22日	帯広児相来所（中3女子面会協議）
	25日	中1男子リモート面会協議（岩見沢児相）
	28日	帯広児相施設連絡協議会、誕生日会、給食委員会、中央児相来所
	30日	BASE 会議
7月	1日	星の丘小学校小6修学旅行（～2日）
	2日	小6男子一時保護終了迎え（釧路児相）
	5日	室蘭児相来所（小3男子面接協議）
	7日	星の丘中学校中3修学旅行（～9日）、札幌市児相来所
	12日	全体会議（レクチャー）、旭川児相来所
	13日	中3女子進路面接他（帯広）
	15日	田中康雄先生診察日、法人運営会議、BASE 会議 中1男子リモート面会協議（Zoom） 高3女子体験宿泊送り（～18日、苫小牧）
	18日	高3女子体験宿泊迎え
	21日	伊達高等養護学校1学期終業式
	26日	星の丘小中学校1学期終業式
	27日	星の丘小中学校夏休み（～8/17） 男子グループ夏の活動①釣り、BBQ
	28日	男子グループ夏の活動②ルスツ
	29日	女子グループ夏の活動①BBQ
	30日	女子グループ夏の活動②ルスツ
	31日	夏休み一時帰省（～8/14）
8月	2日	一時帰省児童送り（札幌市児相）、一時帰省児童送り（岩見沢児相） 一時帰省児童送り・初回家族交流（旭川児相）
	3日	小6男子三者協議（保護者、釧路児相来所） 一時帰省児童三者協議（苫小牧分室）

	4日	中1女子経過診（室蘭児相） 高校生他女子3名夏の活動（苫小牧）
	5日	田中康雄先生診察日、中1女子協議（苫小牧分室来所）
	6日	一時帰省児童迎え（占冠） 小5女子初回面会交流（函館児相） 一時帰省児童（移送（岩見沢市）） 男子フォロー活動（洞爺）
	10日	一時帰省児童送り（帯広児相） 一時帰省児童迎え（旭川児相）、北大実習生教官来所
	11日	北星学園大学実習生、古紙回収
	13日	名寄市立大学実習生、 研修講師（太田副校長）事前打ち合わせ（函館、施設長）
	16日	伊達高等養護学校2学期終業式
	18日	星の丘小中学校2学期始業式 一時保護児童送り（釧路児相）
	19日	田中康雄先生診察日、BASE会議
	23日	全体会議
	24日	誕生日会、給食委員会、一時保護児童迎え（占冠）
	25日	室蘭児相来所（小3男子面接）
	28日	高3女子専門学校オープンキャンパス参加・GH見学（札幌）
	30日	中1女子リモート協議（苫小牧分室）
9月	1日	小6男子両親来所面会交流
	2日	田中康雄先生診察日
	7日	中3女子室蘭養護学校教育相談
	8日	中3女子伊達高等養護学校教育相談
	9日	消防設備点検
	13日	全体会議（レクチャー）
	16日	田中康雄先生診察日
	24日	電気設備点検
	27日	全体会議（レクチャー）、BASE会議
10月	1日	星の丘フェスティバル
	3日	女子グループ登山（ホロホロ山、女子児童5名、職員3名）
	4日	小6男子一時保護移送（旭川）
	5日	小6男子一時保護移送（釧路）
	6日	旭川児相施設連絡協議会
	7日	高3女子前提実習事前確認等（苫小牧）、避難訓練（女子）
	9日	女子グループ登山（有珠山、女子児童1名、職員1名）
	10日	男子グループ登山（カムイヌプリ、男子児童11名、職員3名）
	11日	岩見沢児相施設連絡協議会
	13日	釧路児相施設連絡協議会
	14日	田中康雄先生診察日、中3男子教育相談（雨竜）
	15日	中3男子教育相談（旭川）、高3女子移送（苫小牧） 相談援助実習評価会議（Zoom、北星学園大学）
	18日	函館児相施設連絡協議会、高3女子現場実習（苫小牧、～11/12）
	19日	全体会議、中1男子関係者協議（岩見沢） 星の丘オンライン授業（1校時、小3・中2）
	20日	帯広児相来所（中2男子経過判定）、釧路児相リモート協議
	21日	BASE会議、中2女子関係者協議（三恵病院）
	22日	公用車冬タイヤ交換
	25日	全体会議、誕生日会
	26日	星の丘オンライン授業（小4、中1）
	27日	中1男子リモート協議（札幌市） 北星学園大が相談援助実習評価会議（Zoom）
	28日	田中康雄先生診察日、内部監査、監事監査、
	29日	ボイラー定期メンテナンス、粗大ゴミ収集 高3女子現場実習面会（苫小牧）
11月	1日	小6男子一時保護移送（～2日、釧路）

		中2女子母面会(千歳市)
		高3女子専門学校入学試験(札幌市)
	2日	小6男子協議、星の丘オンライン授業(小5、中3)
	4日	田中康雄先生診察日
	5日	小6男子一時保護終了迎え(占冠) 中2男子協議(苫小牧)
	8日	全体会議(消防来所救命措置レクチャー)
	9日	星の丘オンライン授業(小6)
	10日	室蘭児相・苫小牧分室施設連絡協議会
	12日	中央児相来所協議(中2男子) 札幌市児相来所協議(中1男子) 高3女子現場実習終了迎え(苫小牧)
	13日	女子グループ秋の活動
	15日	中1男子一時保護送り(岩見沢) 小6男子一時保護送り(旭川)、誕生日会
	16日	中2男子三者協議(中央)
	17日	北見児相施設連絡協議会
	18日	田中康雄先生診察日、旭川児相来所、小5男子経過判定(中央)
	19日	中1男子一時保護終了迎え(岩見沢)
	20日	男子グループ秋の活動①
	21日	男子グループ秋の活動②
	22日	全体会議、公用車セレナ車検
	24日	中央児相施設連絡協議会
	25日	BASE会議、帯広児相来所(中2男子面会)
	29日	職員インフルエンザ予防接種(~12/2)、給食委員会
12月	1日	入所予定児童施設見学(岩見沢児相)
	2日	田中康雄先生診察日、中1男子リモート面接・協議(Zoom)
	6日	小5男子特別帰省移送(~7日、北見児相)
	8日	伊達高等養護学校3年生修学旅行(道東方面、~10日)※関西方面から変更
	9日	貯湯槽定期清掃、小6男子要対協(旭川市) 小5男子特別帰省終了迎え(占冠村)
	13日	貯水槽定期清掃、中1男子三者協議(札幌市児相)
	14日	中2男子三者協議(中央児相) 小6女子リモート面接(岩見沢児相)、小5男子帰省終了迎え(帯広児相)
	15日	小3男子面接(室蘭児相)、誕生日会
	16日	田中康雄先生診察日
	17日	BASE会議、給食委員会
	20日	全体会議、入所予定児童施設見学
	21日	法人運営会議、小4男子リモート協議(Zoom) 北星学園大学相談援助実習実習報告会(Zoom) 中2女子一時帰省事前面接(函館児相)
	22日	星の丘小中学校2学期終業式、小6男子リモート三者協議
	23日	クリスマス会、伊達高等養護学校2学期終業式
	24日	浴槽用濾過器定期点検
	26日	冬休み一時帰省開始(~1/9)
	28日	内部監査、中3女子一時帰省送り対応(帯広)
	30日	事務室閉鎖(~1/4)
1月	2日	初売り外出活動他
	4日	小5男子一保一時帰省送り(釧路) 小5男子・中1男子一保一時帰省送り(岩見沢)
	6日	中1男子家族交流・小5男子一保終了迎え(旭川) 中2女子一保移送(岩見沢)
	7日	中1男子迎え(旭川)
	12日	小6男子リモート三者協議(旭川)
	11日	高3女子 GH事前面接(札幌) 小3女子一時保護送り(釧路)
	13日	伊達高等養護学校3学期終業式

		小5男子リモート協議（岩見沢）、小5女子家族交流移送（函館） 中2女子リモート三者協議（中央・三恵）
14日		小5男子・中2女子一保終了迎え（岩見沢）
17日		星の丘小中学校3学期始業式、田中康雄先生診察日 高3女子グループホーム宿泊体験（～19日、札幌）
19日		高3女子迎え（札幌）
21日		BASE会議
24日		田中康雄先生診察日
26日		小6女子措置変更先施設見学（黒松内）
27日		中3男子受験対応（～28日、旭川）
28日		特別支援学校高等部入試、給食委員会
31日		田中康雄先生診察日、高3女子リモート認定調査（登別市） 中1男子リモート面接（北見児相）
2月	2日	退所児童さんリモート協議（旭川育児院）
	7日	苫小牧分室来所児童面接（高3女子、中2男子） 全体会議、中1男子リモート面接
	9日	星の丘小中学校1校時オンライン授業
	12日	中1男子くん制服合わせ（札幌）
	14日	田中康雄先生診察日
	15日	中1女子実母面会（札幌）
	16日	BASE会議、星の丘小中学校1校時オンライン授業 中1男子リモート面接（富良野国の子寮） 新規入所児童リモート面会（北見児相）
	17日	特別支援学校高等部入試合格発表、中2男子リモート面接
	18日	胆振総合振興局指導監査⇒中止
	21日	星の丘小中学校休校
	22日	星の丘小中学校休校 星の丘小中学校オンライン授業、中2男子リモート面接（中央）
	24日	中1男子H.Yリモート4者協議、中2男子リモート面接
	25日	中3男子制服購入（旭川）
	28日	田中康雄先生診察日、中1男子リモート協議（中央） 全体会議（事業総括）、小3男子リモート面接
3月	3日	中1男子リモート協議
	4日	伊達高等養護学校卒業式
	7日	全体会議（研修報告会）、田中康雄先生診察日、 高3女子旭寮体験他（～3/24）
	14日	星の丘小中学校卒業式、田中康雄先生診察日
	15日	小4男子リモート面接
	16日	中1男子リモート面接、中2女子施設見学（美唄） 新規入所予定児童母リモート面接
	17日	新規入所予定児童面接（旭川）
	18日	BASE会議、中1女子日帰り手術（日鋼記念病院） 新規入所予定児童施設見学（札幌市）、苫小牧分室来所
	22日	全体会議（事業計画）、小4男子一時保護移送（旭川） 星の丘小中学校学校運営協議会
	23日	消防設備点検
	24日	星の丘小中学校修了式、退所児童リモート退所式、 小4女子リモート協議
	25日	星の丘小中学校春休み、小4男子リモート面接
	28日	田中康雄先生診察日、入所予定児童リモート面会（小2女子、帯広） 児童心理治療施設入所生徒支援連絡協議会（Zoom）
	29日	小3女子面会交流（岩見沢） 中1男子一時保護移送（岩見沢）

②クラブ活動について

令和4年度に活動したクラブは、書道クラブと農業クラブで、主な活動は以下のとおりである。

剣道クラブ
今年度も、新型コロナの影響により、実施しなかった。
書道クラブ
※不定期実施※ 計4回実施(8/31、9/1、9/8、9/13) 第90回全国書画展覧会(広島県熊野町主催)に男子4名、女子4名が出品し、金賞2名、銀賞4名、銅賞1名の結果だった。
農業クラブ
今年度も男子と女子の2グループで種苗を購入し、畑を耕して、きゅうりやなす、ピーマンなどの野菜を育てた。収穫した野菜は、職員や学校教員も購入し、その売り上げの一部を使用して収穫祭を開催した。

③新型コロナウイルス感染症対応

- ・入所児童の感染状況
(省略)
- ・職員の感染状況
(省略)

(3) 支援体制

- ・支援課の具体的な取り組みについては、①グループ支援(男子グループ、女子グループ)、②年間行事、③心理治療、④日課と業務、⑤家族支援、⑥性教育委員会、⑦医療連携室の7カテゴリーに分類し、それぞれに計画を立案し、異職種協働を基本としてチームのなかで支援が展開された。それぞれのカテゴリーについては、各論として事業計画を立て、一年間を別に総括している。
- ・子ども達の生活の安全を図るための取り組みについて、確認方法等の具体的な検討を続けた。

(4) 施設組織体制

①職員配置状況(令和5年3月31日現在)

	定数	現員数	備考
施設長	1	1	
医師	1	1(1)	
看護師	1	1	
事務員	1	2	
家庭支援専門相談員	1	2	1名加算
個別対応職員	1	1	
児童指導員	13(3:1) 12-11(3.5:1)	10	
保育士	10(4:1) 9(4.5:1)	1	
心理療法担当職員	4(10:1)	4(10:1)	加算なし
栄養士	1	1	
調理員等	4	6(1)	
清掃員		2(2)	
施設管理員		2(2)	
計	29	34(6)	

②各種会議の実施

会議名	頻度	構成
課長会議	週1回	施設長、支援課長、医療連携室長、総務課長
主任会議	週1回	支援課長、各グループ主任
各グループ会議	(休校日を除く)	各グループ職員
全体会議	月1~3回	原則、全職員
性教育委員会	月1~3回	児童指導員、心理士、看護師

給食委員会	月1回	施設長、総務課長、支援課長、管理栄養士、調理員、支援課勤務者
感染症対策委員会	必要都度	施設長、支援課長、医療連携室長、総務課長
BASE 会議	月1回	星の丘小中学校 校長、教頭 バウムハウス 施設長、支援課長、総務課長
実務者会議	月1回	星の丘小中学校 バウムハウス グループ主任
入所前カンファレンス	都度	伊達市教育委員会、星の丘小中学校、バウムハウス
登校前カンファレンス	都度	伊達市教育委員会、星の丘小中学校、バウムハウス

(5) 職員研修実績

昨年度7本の外部研修への参加であったが、今年度は新型コロナの影響により当初より大部分がオンラインでの実施もしくはハイブリッド形式の研修が多くなった。また、Zoomで受講するために、予算的な面や、移動時間がなくなること等のメリットもあるため、積極的にZoom開催の研修会に参加してきた。

研修名	時期	場所	参加者
全児心関連、子どもの虹関連			
第1回施設長会	5/26~27	横浜 (Zoom)	施設長
第2回施設長会	2月		
職員研修会	7/27~29	Zoom	心理士4名
指導者研修	9/8	Zoom	男性児童指導員
指導者研修(合同)	6/9	Zoom	女性児童指導員
新任職員研修	10/5~7	Zoom参加	女性保育士
心理部会	10/26~27	Zoom参加	男性心理士
全社協、道社協関連			
施設職員スキルアップ講座 (管理職編)	4/25~5/25	On-Demand	施設長、課長職
施設職員スキルアップ講座 (新任職員編)	5/27	Zoom	女性児童指導員
施設職員スキルアップ講座 (中堅職員編)	6/15	Zoom	主任3名
スーパービジョン研修	10/26~27	Zoom	支援課長
道養協関連			
道央支部研修会	10/23	Zoom	男性指導員
児童養護施設協議会職員研修会	12/9	Zoom	女性指導員
北海道			
基幹的職員研修	12/5, 22	Zoom	女性児童指導員
性的虐待対応研修会	8/23	Zoom	女性7名
BCP作成支援研修会	9/8	Zoom	総務課長
その他			
医療・介護従事者のための新型コロナウイルス感染予防講座	7/9	Zoom	医療連携室長
2022年度「子ども虐待」基礎講座	7/11~8/15	On-Demand	女性3名
ADHD診療連携講習会	11/10	Zoom	
Vineland-II実践研修会	12/18	Zoom	心理士4名

内部研修	時期	講師	
監護措置と親権者関係理解について	4/12	施設長	※全体会議中
防災教育①消防計画	5/10	総務課長	※全体会議中
児童の権利擁護～被措置児童虐待等の防止について	6/7	支援課長	※全体会議中
個人情報保護について	7/5	総務課長	※全体会議中
治療支援の標準的な実施方法	7/5	心理主任	※全体会議中

について			
必要な福祉人材と人員体制の基本的方針について	6/7	施設長	
感染症の予防と安全確保について	9/6	医療連携室長	※全体会議中
救急救命講習（伊達消防）	10/18	医療連携室長	※全体会議中
研修報告会	12/6、2/7	研修参加者	※全体会議中

(6) 修繕・整備

子どもの安全な生活を守るための住環境整備、また働きやすい職場環境整備等のために、必要に応じた対応策を講じた。今年度は、これまでに計画していた男子の居室の扉の全交換とその枠の修繕工事を計 18 箇所行なった。それに合わせて、医務室前、児童玄関内など 4 箇所の壁修繕工事も行なった。

また、竣工から 15 年を経過していることから、木製の外階段が朽ちて崩壊してしまったことにより、コンクリート製の階段に変更している。また、配管のつまりなども少しずつ見られ、厨房排水管の洗浄や熱交換プレートの洗浄も行なっている今後も部品交換や清掃、修繕等必要な箇所が出てくるが計画的な実施を行なっていきたい。

①令和 4 年度の修繕・整備の実施状況

当初計画によるもの

- ・屋上防水更新工事
(・非常灯交換工事 部品材料のみ購入したが未設置)

計画外修繕

- ・保存食用冷凍庫交換（税抜 98,605 円）
- ・漏水による浴室照明交換（税抜 16,980 円）
- ・屋上ルーフトレン清掃（税抜 63,000 円） 8/5 実施
- ・1 階ガス乾燥機入替工事（室蘭ガス、税抜 220,000 円） 9/21 実施
- ・1 階男子浴室換気扇交換工事 サガ工設備 116,000 円（税抜） 12/23 実施

②令和 5 年度に修繕・整備を持ち越して予定するもの

- ・非常灯交換
- ・体育館ステージ壁修繕

④中長期修繕・整備計画及び実績

修繕箇所	修繕内容	目標	備考
本体	外壁（塗替え）	長期	要計画
	屋上防水	令和 4 年度実施	
	男子児童用トイレ（排水）	中期	
体育館	屋根、外壁	長期	要計画
グラウンド	土	長期	
その他設備等	厨房機器設備	長期	
	ガスボイラー設備	長期	
	電気設備	中短期	

(7) 事業収支

別紙の決算報告書を参照

(8) その他の報告

①寄贈等について

4 月	4 日	ダスカジャパン様	チョコレート
	16 日	イオン伊達店様	イオンギフトカード（16,000 円）
6 月	8 日	S 様	掛時計（SEIKO RQ307A、定価 85,000 円（税抜）
7 月	27 日	K 様	書籍
9 月	7 日	ヴィクトリア	お菓子、水
11 月	3 日	0 さま他	お菓子他
	9 日	ヴィクトリア伊達店	お菓子、水
12 月	22 日	セイコーマート	Xmas ケーキ

23日	北海道共同募金会	10万円
29日	ヴィクトリア伊達店	お菓子、水

②理事長決裁による契約（物品購入等）

契約名（工事名）等	契約（発注）先	費用（税抜）
1階男子浴槽用濾過器薬注ポンプ交換	ショウエイ北海道	110,000円
2階女子浴槽用濾過器薬注ポンプ交換	ショウエイ北海道	110,000円
1階ガス乾燥機入替工事	室蘭ガス	220,000円
1階男子浴室換気扇交換工事	サガ工設備	116,000円
厨房外調機系統配管修繕工事	サガ工設備	293,000円
ノートパソコン（5台）	hp	579,000円
タイヤショベル修理点検	時田自工	121,430円

③補助金及び助成金について

- 令和4年度の補助金等申請は4件であった。内、措置費とコロナに関連するものが各1件、物価高騰対策に関連するものが2件であった。

補助金名等	交付元	補助金額等
社会的養護従事者殊遇改善事業	北海道	2,560,000円
食材費高騰対策支援金	伊達市	612,000円
医療社会福祉施設等物価高騰対策支援金	北海道	500,000円
児童福祉施設等感染防止対策補助金	北海道	803,000円

- 今年度も、道民歳末たすけあい運動の助成金5万円を頂き、クリスマス会で活用させて頂いている。

④職員の労災・事故等

発生日	概要等
4月3日	ぬいぐるみの取り扱いから暴力に発展した児童間のトラブルが発生。そこに介入したFSW。男子児童の蹴り上げた足が当該職員の顔面にあたり、打撲による内出血および右側顔面にしびれがあったため、翌4日に伊達赤十字病院の救急外来を受診。CT検査の結果、打撲の診断。
5月9日	男性心理士。小6男子が他児に向かっていこうとする様子があり、暴力の恐れがあったため制止する。その際に当該児童から左目下部を殴られる。痛みがあったため、患部を冷やして対応したが、2日経過しても痛みが残っていたため、菊地眼科を受診。眼球や眼底に異常はなく、点眼薬を処方された。

⑤主催研修会等について

①2022年度全国児童心理治療施設職員研修会について

- 日程 2022年7月27日（水）～29日（金）
- 会場 札幌市教育文化会館（小ホール、研修室3室等） ⇒ Zoomに変更して開催
- 担当施設 こころぼ（札幌市）、バウムハウス（伊達市）
 - 後援 厚生労働省、文部科学省、北海道、札幌市、北海道教育委員会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会

・研修内容

第1日目（7月27日）

- 13:30～13:40 開会式
- 13:45～15:20 行政説明（厚生労働省、文部科学省）
- 15:20～16:00 資生堂海外研修報告
- 16:00～17:30 基調講演『児童心理治療施設の専門性～改めて生活の中の治療とは』
講師：山梨県立大学 人間福祉学部 教授 西澤 哲 先生

第2日目（7月28日）

- 9:30 開場
- 10:00～11:50 各施設からの発表 3会場に分かれての発表（発表35分 質疑応答15分）
- 13:30～16:20 各施設からの発表 3会場に分かれての発表（発表35分 質疑応答15分）

第3日目（7月29日）

- 9:30 開場

10:00~11:50 公開講座『生活の中での「思い」にどう関わるか～子ども、組織、そして自分』

講師：精神科医 ころとそだちのクリニック むすびめ
院長 田中 康雄 先生

12:00 閉会式

・備考

7/22 コロナ感染拡大に伴い現地開催を断念。オンライン開催となる